

# 令和2年度第1回鳥取県総合教育会議 議事録

## 1 日 時

令和2年9月3日（木） 午後2時から午後3時まで

## 2 場 所

鳥取県庁 第三応接室等 オンライン会議を実施

## 3 出席者

知事 平井伸治  
教育長 山本仁志  
教育長職務代行者 中島諒人  
教育委員 若原道昭  
教育委員 佐伯啓子  
教育委員 森由美子

有識者委員 石原太一  
有識者委員 大羽沢子  
有識者委員 坂本哲  
有識者委員 福壽みどり  
有識者委員 松本篤己  
有識者委員 馬淵牧子  
有識者委員 山下誉議

事務局 子育て・人財局長 木本美喜  
子育て・人財局総合教育推進課長 安養寺博

## 4 あいさつ

### (木本局長)

- ・令和2年度第1回鳥取県総合教育会議を開催する。本日は、10の会場を繋いだオンライン会議となるため、会議の進行へ御協力をお願いする。開会に当たり、平井知事から挨拶を申し上げる。

### (平井知事)

- ・今回は、新型コロナウイルス対策もあり、別々の場所から結ばせていただいた。距離は隔たっていても、子ども達の未来を一緒に作っていこうという思いは一つにできればと思う。ぜひ忌憚のない発言をお願い申し上げる。
- ・本日は、2つ議題がある。まずは新型コロナウイルスについて、子ども達の学校生活に極めて厳しい影響をもたらしていたのではないかと。教育カリキュラムのこと、子ども達のメンタルの保持、こういうことに影響があったかもしれない。もちろん、御家庭の方の事情も色々と生じただろう。そういう意味で、今日は新型コロナウイルスと共に、私たちの教育活動、子ども達の未来を育むため

に何ができるのか、忌憚のない御意見をいただきながら、今後を活かしていけたらということが一つの大きなポイントである。

- これまで、総合教育会議で目標を作ってやってきた。それが大綱という形でまとめられ、これをチェックするわけだが、残念ながら全部100点満点という形にはなっていない。最近、マスコミ等でも注目され、色々と議論いただくこともあるが、残念ながら学力の問題について、特に国語力など、以前は全国よりも際立って鳥取県は良いポジションにいたが、今は全国平均、ものによってはそれを下回るというところまで落ちてきている。こういうことをどう考えていくのか。不登校への対策についても決して今、手を抜ける状況ではない。必ずしも目標が達成できていない。今日は、年度の途中であり、2学期が始まったばかりであるため、これからの学校の運営にも活かしていければ有難い。
- 高校教育の再編等、これからの議論が進んできているが、このことについても色々と課題がある。学校の色々な特色もあり、それを伸ばすため我々知事事務局も応援させていただきながら、教育委員会の方でも取り組んでいただき、学校の工夫も出てきている。ただ、残念ながら定員の充足率は極めて悪くなってきている。どういうふうに対策をとっていくのか、そろそろ本気で考えないといけない状況にきているのかもしれない。
- 色々と課題があるところだが、皆さんと一緒にこの新型コロナウイルスの厳しい時代を乗り越え、また、少子化等々目の前に立ちはだかっている課題、これも乗り越えていくことで、鳥取県から人材が育ち、子ども達も夢を描くことができるようなそういう社会にしていきたい。この総合教育会議の皆様にご指導をいただければと思うので、お願い申し上げます。

#### **(木本局長)**

- 続いて、山本教育長に御挨拶をお願いします。

#### **(山本教育長)**

- 知事を始め、有識者委員の皆様方におかれては、日頃、鳥取県の子ども達を始めとする教育に深い関心をお寄せいただき、また力添えを賜り感謝申し上げます。
- 例年より若干短めの夏休みが終わり、今、学校に子ども達の賑やかな声が戻ってきている。この新型コロナウイルスの対応については、昨年度末の一斉休校以来、関係の皆様においては、学校現場とともに対応に追われていた日々が続いているわけだが、本県においては、県民または保護者の皆様方をはじめ、教職関係の皆様のご尽力、御協力、そして知事を始めとする執行部や議会の支援により、他県の感染が拡大している地域に比べると、学校教育への影響は、現段階では比較的小さく抑えられているということに感謝申し上げます。
- 現在は、第2波の中にあるという見解もあるわけだが、本県においても、7月下旬から8月上旬にかけて感染が広がり全県に県独自の新型コロナ警報が出される緊迫した事態も発生した。これもちょうど夏休み時期に重なり学校への影響は少なかったが、これから秋、冬を迎えるに当たり今度は新型コロナウイルスに加え、季節性のインフルエンザの流行とも重なってくる。今後のさらなる感染にしっかりと備える必要がある。
- オンライン授業等、休校の際の学習保障に向けてのICT環境の整備や、そうした機器を活用した授業に向けた教職員研修など急ピッチで進めている。また、この新型コロナウイルスに関連して、人権への配慮への指導についても進めてきている。
- そうした中、島根県をはじめとして、学校の寮や部活動においてクラスターが発生するような事態もあった。こうしたことを教訓にし、本県では、執行部と協力をして新たにガイドラインを策定し、それに向けた備品などもしっかりと整備し、充実させる措置をとったところである。

- ・今後の感染拡大時における学習機会の確保や、これから迎える運動会、文化祭、修学旅行といった学校行事、高校入試、大学入試など、我々の心配事が後を絶たないが、この新型コロナウイルスを契機に学びの形、教え方が変わると、パラダイムシフトが起こってくると言われており、こうしたことへ先んじて対策をしていくことも必要だと考える。
- ・今後とも、豊かな自然や人々の絆といった鳥取の良さを生かした体験的、或いは探究的な学びを通じて、また、小さいことを活かした本県ならではのきらりと光る取組など、こうしたことも積極的にチャレンジしていきたいと考えている。
- ・総合教育会議でいただいた意見なども踏まえて、さらに取組を進めていきたいと考えている。本日はよろしくお願ひ申し上げます。

## 5 意見交換

### (木本局長)

- ・それでは意見交換に移る。本日は議題を2つ用意している。1点目は「新型コロナウイルス感染症に対応した学習機会の確保等」について、2点目は「令和元年度鳥取県の『教育に関する大綱』の評価」についてである。まずは資料の説明を教育委員会にお願いしたい。

### (森田次長)

- ・資料の1-1を御覧いただきたい。新型コロナウイルス感染症に対応した学習機会の確保等についてということだが、先ほど知事の方からもカリキュラムの面で課題があるという話があった。今後子ども達の学びを止めないという視点に立って取組を進めていきたい。
- ・県立高校の場合、オンライン学習を試行的に実施し、その様子についてはYouTubeなどに流して横展開を図る取組を行っている。市町村立学校については、鳥取県のポイントとしては、県下共通の学習ツールを活用する取組を行っている。具体的にはGoogleのアカウントを生徒に持たせ、それを使った全県的な取組をしていきたいと考えている。いずれも必要なのは「教員のICTの活用力の向上」であり、指導方法を深めるために、教育委員会の方で一定期間機器を貸し出して研修をするとか、こちらから出向く研修をするなど取組をしているところである。それ以外の資料についてはまた御覧いただきたい。
- ・資料2について御覧いただきたい。具体的には教育に関する大綱の評価について、先ほどから話があったが、学力に関して平均正答率でいくと、小学校6年生の国語、算数が全国平均を下回っている。英語については、中学校の英語教科教員の英検準1級以上の英語力を有する教員の割合がまだまだ低い状況である。体力の点では、柔軟性が課題であり、小学校5年生、中学校2年生ともに長座体前屈が全国平均以下となっており、これから力を入れていかないといけないところである。
- ・不登校に関しては、出現率が目標を下回っている状況でありさらに努力をしていく必要がある。
- ・高校の入学率の割合については、日野高校や青谷高校など、民間のFM放送を使ってPRする取組も行っており、さらに魅力を高めていきたい。説明は以上となる。

### (木本局長)

- ・それでは早速、有識者委員の皆様から御発言をいただきたい。皆様からいただいた意見を事前に配布しているため、それを御覧いただきながら、御発言については、2つの議題をまとめておひとり様3分程度でお願いしたい。まずは県庁においていただいた松本委員からお願いする。

### (松本委員)

- ・まさにコロナの中、子ども達と一緒に過ごしてきた。県立学校とは違い、私学の独自性を発揮しながらどのように対応したかを御報告させていただく。

- ・昨年度の卒業式については、ちょうどコロナが発生した時期で、皆で意見を出し合い、実施しようということになり、規模は縮小したが実施した。そして、3月2日の首相の臨時休校の要請を受けて休校を実施したが、完全な休校ではなく、出欠をカウントせず、午前中補習をするという体制をとった。曜日ごとに学年を決めて1クラスを細分化して補習を行った。自由登校なので、コロナが不安だという生徒については、無理に登校しなくても良いという対応をとった。家庭でもしっかり学習できるように家庭学習用のプリントやスタディサプリを活用した。
- ・今年度になり、始業式や入学式は予定通り実施した。授業については、4月21日から5月6日の臨時休校期間について、昨年度と同様に分散登校、クラス分けをして午前中のみの授業を実施した。完全な休校は5月2日のみだった。それ以降は、例年と変わりなく通常授業を実施している。
- ・夏休みについては、当初7月20日から8月24日までを予定していたが、休校期間の学習の遅れや今後のことを考え夏休み期間を短くした。通常は夏休みに補習を行うが、今年は補習という形ではなく、出席のカウントを取る授業として実施した。色々な行事については、宿泊研修やスポーツ大会は中止とした。夏梨祭という学園祭は、入場者を生徒のみとし、実施した。ビデオ録画を行い、保護者にはYouTubeで配信を行った。海外語学研修については、例年10月末に5泊6日程度でグアムやオーストラリアに行っていたが、今年はこれが無理になり、今後については、12月ぐらいまで待ってそこで実施するかどうか最終決定する。海外に行けない場合は国内か、国内が難しいければ別の方法をと考えている。現高校2年生が高校3年生になって実施するのは非常に難しいため、なんとか年内に形を考えながら実施したい。
- ・本校は私学のため、県立高校に右に倣えではなく、県立高校のやり方を参考にしながら、方針としては正當に怖がりながら、自分たちで私学の独自性を発揮しながらやっといこうと色々取組んでいる。
- ・教育に関する大綱については、個人的な意見だが、強烈な憧れですね。生徒たちは、先生の授業の様子を見て、この先生の授業素敵だなとか、この教科面白いなとか、そういった自発的な憧れがモチベーションになる。教員の熱というのがやはり一番大事じゃないかと考える。

#### **(木本局長)**

- ・続いて、石原委員にお願いします。

#### **(石原委員)**

- ・ICTの教育の機会ということで研修もたくさん行われているようで、今、大急ぎで教員が準備していると聞いている。一方で、現場では積極的にやっといこうという教員と、よく分からないとなっている教員もおり、混乱が起きているのは起きている。あまり分からないという教員の中でも、少しずつ課題配信だけでもやってみようかと動いている姿がうかがえる。よく分からないで止まっていたところが今急に動き出している。その中で分かることがいくつかあったと思う。例えば、課題の配信や授業の配信は何人か分かっている教員がいればそれで一斉にできるとか物凄いパワーがあるなど、ICTを使うと、今まで手で一つ一つ配っていたものが一斉に配信できたり、生徒からの意見を吸い上げたり、課題を提出してもらおうなど、そういうことができてきていると聞いている。現場で色々な教員がいて、得意な教員とそうではない教員がいると思うが、ぜひ得意な教員の適性を判断し、その教員を中心に広げてもらったらと考える。
- ・高校の定員不足について、高校生で相談に来る子もいるが、N高校とか通信制の高校がYouTubeなどの映像コンテンツを活用しており、中学生、高校生との親和性が高い。その辺りで、どういうふうに生徒達を選んでいるのか、全日制の高校に進学するのではなく通信制に行くのはなぜなのか、そういった情報を追いかけることで、何か参考になるところがあるかもしれない。

**(木本局長)**

- ・続いて、大羽委員にお願いします。

**(大羽委員)**

- ・私は、登校可能な時期にすることと、登校できない時期にすることと大きく2つに分けて考え、併せて教員の働き方改革について意見を申し上げます。
- ・県として色々な取組をされており、これから前向きに進んでいくのだなということで、ICTについてはとても期待している。一方で、通常授業において、誰もが持っている教科書を、子どもの記憶を引き出すツールになる物としてしっかり活用していくと良いのではないか。例えば、意見書で紹介している教科書の自学自習の促進について、教科書自体に子ども達が自ら学ぶことを促進させる工夫がたくさんある。それを本当に子ども達や教員がきちんと分かっていて、家に帰った時も活用し、学習できると、そこが土台になってICTをより多く活用していくことができる。その教科書を活用した形態をそのままICTで活用することで、ICTを活用し家でもできるという安心感を与えることができる。
- ・登校できない時期にすることについては、県の取組も進んでいると感じている。約20年前に学校にパソコンが導入された時も、今と同じ状況が起こった。得意な先生、不得意な先生がいて、その得意な先生に位置づけとして「ICT推進教員」のような形で立場を与えてあげるとその先生も動きやすいと考える。担任の立場だけだと他のクラスや他の学年に声かけられないという状況がある。そういうふう得意技を持った先生が動きやすいような立場をつくってあげると良いのではと考える。
- ・業務改善について、TOYOTAの生産方式の秘密というCMで、はさみの置き場ひとつ、物の並べ方ひとつ、見え方ひとつで非常に業務改善ができるというCMをみて驚いた。外からの視点を入れることで、学校における働き方改革の改善が、ちょっとした工夫でできるのではと思う。

**(木本局長)**

- ・続いて、坂本委員にお願いします。

**(坂本委員)**

- ・コロナの影響で、GIGAスクール構想も国の方で前倒しにやるということで、順次進行していくと思う。今後、考えないといけないことは、コロナが終わった後、コロナだけではなく緊急時の場合と平常時の場合で災害が起きた時のことを考えると、学校だけにとらわれず、地域をしっかり巻き込んでいくような仕組みがあったら良いと考える。例えば、公民館や図書館など、子ども達が家庭の中で必ずしもインターネット環境が万全に整っているということが100%あるわけではないので、少人数だけど近くに集まれるような場所があり、そこに地域企業や公民館、図書館の職員も巻き込んで、そうした地域が協力するような仕組みができたらと思う。
- ・私もIT企業なので、基本的に、今回のコロナの時期は、東京、大阪を含めて全てテレワークで仕事を行った。やはり、子ども達のことを考えると、最終的にコミュニケーションを取ること自体は、教育においてとても重要だと考える。リアルコミュニケーションということをしかりと考えながら、デジタル化やオンラインで何でもやれば良いということではなく、少人数でもいいから密にならない形でコミュニケーションが取れるような場所を提供していく仕組みがあったらいいと思う。

**(木本局長)**

- ・続いて、福壽委員にお願いします。

### (福壽委員)

- ・まず知事に、新型コロナウイルス感染症対策の素早い迅速な対応、感謝申し上げる。身体だけではなく、精神的にも色々大変だと思うが、無理されすぎないようにとお伝えしたい。教育と同じで、自分だけ分かり、自分だけでできれば良いということではなく、県のそれぞれの立場の方がそれぞれの持ち場でリーダーシップを発揮できるように後進の育成にも心を砕いていただきたい。
- ・意見書はUDフォントを使い作成した。UDフォントを実際に使って実証実験をすると、子ども達の平均回答数や正答率が高くなったということで、学習障がいや見え方に障がいのある子だけでなく、誰にでも効果があるということで、総合教育会議でも、壮大な理想を掲げることも大事だが、誰に対しても効果があり、お金も手間もかけずにできることは早急に取り組んでいただきたい。今回の会議の資料の中にもUDフォントが使われている資料もありどんどん使用してほしいと思う。
- ・今年、娘が進学して家を離れたが、実際に通学できているのは1カ月ほどであり、秋からも一先ずオンライン授業で始まることが決まった。ICTの活用ももちろん大切だが、学校はオンラインだけではない学びがたくさんある。行事の中止や延期があるが、実施できる方向を考えていただきたい。
- ・娘の話になるが、先月、知り合いのお店でアルバイトをした時、外国人の対応をしてくれたと後から知人から聞いた。娘が私の前で英語を喋っているところは絶対に見せてくれないので、(小学生時代の)英会話教室が全く役に立っていないと思っていたが、そういう所も含めて、教育はその時だけではない、じわじわと後で効いてくることもあると思った。
- ・1日何時間でも家庭学習をできる子どもは素晴らしいが、その子どもはそれが許される環境にあると思う。したくてもできない子どももいるということを頭の片隅に置いておいてほしい。YouTubeでの学習も、Wi-Fi環境があると良いが、子ども達が自分の持っている機器のギガ数の中で学校の授業に関わるYouTubeを観るのは嫌だと感じることもあると思うので、画素数を落とせば見られるといったことも含めてもっと情報を出してほしい。
- ・5月に知事の名前で里親認定を受けた。一人でも多くの子どもの大切にされたという記憶を残してほしいと思い、今とてもやる気満々だが、里親サロンに初めて参加した時、私の前に認定された人の所にもまだ里子がいないと分かった。あまり先になると情熱を失ってしまうのではと心配している。虐待を受けた子どもや専門的な知識がないと育てるのが難しい子どもが増えていることは分かっているが、育ててみようと思ひ研修を受けた方にはぜひその機会が巡ってくれば良いと思う。意見書の方は読んでいただいたという前提で、他の事を話させていただいた。

### (木本局長)

- ・続いて、馬淵委員にお願いします。

### (馬淵委員)

- ・体力の向上について、今年度の課題の柔軟性の向上が少し上がっており嬉しいと感じたが、全国レベルから見るとまだまだなのかなと思う。前回の会議でワンミニッツエクササイズをもっと現場で取り入れて継続的な取組をしてはどうかということ提案したが、そこを活かしてさらに柔軟性を向上できないかと考える。ワンミニッツエクササイズの中で柔軟性の向上の部分が1秒～2秒あるかないかだった。本気で柔軟性の向上を狙うのなら、柔軟性向上に特化したプログラムを現場で取り入れるべきだし、教員の研修にも取り入れるべきだと感じた。
- ・柔軟性の向上だけを行っても体力が向上するわけではないので、瞬発力、平衡性などバランスよく体力を向上させていくことが小中高に関してはとても大事なことである。ワンミニッツエクササイズはたった1分だが、毎日の継続が大切だと思う。大人の我々もそうかなと思うが、小さい頃はす

ごく大事なことなので、学校の中で、一定の時間、お昼休みが終わってから、掃除の時間の前など、各学校で決めてもらいその時間に流すとか、コロナで休校になった時はYouTubeで配信してみんなが観れるようにするとか、そういった取組を早々に取り入れた方が楽しんでやれるのではないか。楽しまないと子どもは続かないので、楽しんでやれる取組が必要になってくる。実際に、私たちのスタジオでは、コロナの間閉鎖していたが、その間、ぴよんぴよんテレビに5分間エクササイズで出演しているため、取り溜めた動画をYouTubeで読み込み、週1回お客様宛のLINE@で配信した。割と好評で、実際に目で見て体を動かすと、とても分かりやすく、そのような取組を体育の授業のみならず空き時間を利用しながらいけたらICTの活用についても楽しく取り組めるのではと思った。

#### **(木本局長)**

- ・続いて、山下委員にお願いします。

#### **(山下委員)**

- ・実際、私の英会話スクールでもGWから一か月半にわたりzoomを使ったオンラインレッスンを提供した。初めの方は皆さん慣れない、対面の方が良いという声が多かったが、週が経つにつれ慣れてきたため、オンラインも悪くない、家にいて授業が受けられるため移動時間が効率的に使えるといった意見もあった。その点は良かったが、全員、インターネット環境が整っているわけではなく、端末を借りたり、家にネット環境がない方はそういった場所を探して繋げるなど不便をかけた方もおられた。今後の理想としては、将来的にコロナや災害に備えて、究極、理想としては、どこに行ってもWi-Fiが使える環境が整備できれば、教育だけではなく災害時の安全確保にも役立つのではと思った。
- ・教員・生徒の英語力について、実際、私も10年以上この仕事をしており、小学校、中学校、高校の教員が仕事に必要なだからということで習いに来ていたが、どうしても時間の壁が大きいようで、特に高校の教員になると、部活に大きな時間を割かれるようで、入学されても続かないというのが現状である。ここ数年間、中学校、高校の教員は生徒におらず、小学校の先生が3人いるだけ。やはり今後、小学校、中学校、高校の教員の英語力をアップするためには時間を確保するということが必要になる。効率よく学校の仕事を終えることで、オンラインレッスンを受けたり自分で勉強する時間も増えていくと考える。
- ・生徒も中学校、高校になるにつれて部活に割かれる時間が多いため、それを理由に辞める生徒もおり残念に思う。うまく時間が増えていけば生徒ももっと英会話の練習や将来にわたって使える英語力を身に付けることが可能ではないかと思う。

#### **(木本局長)**

- ・それでは続いて、教育委員の皆様から御意見をいただく。まず佐伯教育委員にお願いします。

#### **(佐伯教育委員)**

- ・有識者の皆様には貴重な御提言をいただき感謝申し上げます。御意見を参考にさせていただき、取り入れられるところから進めていきたいと考えている。新型コロナウイルス感染症に対応した学習機会の確保等について、臨時休業や分散登校等、今後どのような状況になるのか見通せない中で、子ども達の学びを継続していくためにはICTの活用は不可欠だと考える。教育委員会もそのために教職員の研修に力を入れており、教育センターでは、学校を直接訪問して、実際に機器を持ち込んで使ってもらいながら研修を行い、終わった後もしばらくの間機器を貸し出して使ってもらおうという研修を実施しており、かなりの申し込みがあると聞いている。このようなことが広がることで、少しずつ教員の苦手意識が薄れていけばと考える。インターネット環境は家庭によって異なる

ため、先ほど坂本委員より意見があった公民館等を活用することも既に試みられており、こういうことも可能だと考えている。

- ・実施可能なところから取組を進め、教員、児童生徒も学校での一斉授業でない学びのスタイルを確立してほしいという意見が大羽委員からあったが、現在、少し落ち着いている状況の中、児童生徒には次のような力を身に付けてほしい。それは、基本的な学習の進め方を自分で知って、自主学習のような形で実践できるようにすることである。新しい単元に入る時にどのようにして学習に取り組んでいくのか、自分でできるところから取り組んで自分の考えをまとめたり、分からないことはどのように探っていこうかと考えたり、そういった姿勢を持てるようにすることである。学習習慣とか学びに向かう力を今のうちに培ってほしい。自宅で一人一人取り組んでいくためには集中力や継続して努力する力が求められる。その内にこの環境が整って子ども達も慣れてくると、双方向でのやり取りが可能になってくる。そうすると、自分の学んだことを表現し、それを友達に見てもらうことで自分の考えがより広がり、友達に認めてもらう、教員からのコメントがもらえることで自信が持てるようになる。そのような学びに繋げていくことが今後の目標であると願っているところである。
- ・令和元年度教育に関する大綱の評価について、「家で自分で計画を立てて勉強している児童生徒の割合」が小中高とも目標以下だったというのがとても残念だった。学びに向かう意欲とか実践しようとする姿勢をもっと向上させたい。このためには多様な学びのスタイルの確立をしていかなければいけない。家庭環境や児童の特性に配慮することがとても大切になってくる。コミュニティスクール、地域学校協働活動というのは、子どもを取り巻く環境の上でとても重要である。先ほど有識者委員からも考えが出たが、地域とともに子ども達を育てるという上ではとても大切なことだと考える。その中で子ども達の学びに向かう力を付けていきたい。
- ・不登校問題がとても気になる。継続して粘り強く取り組んでいかないといけないことである。今年度、校内サポート教室を東部、中部、西部で取り組み、その成果が上がっている。このような多様な学びの場やスタイルを模索しながら実践が広がっていけばと思う。不登校支援ガイドブックが新たに作成された。現場で悩まれている教員の参考になればと考える。相談窓口も紹介されており、少しでも困っている児童生徒の助けとなるような色々な機関の力を借りて一緒に取り組んでいって欲しい。誰一人取り残さないという言葉、とても心に残っている。現場の教員もぜひ心に留めて、不登校の問題で少しでも困っている生徒に寄り添っていただけたらと思う。

#### **(木本局長)**

- ・続いて、若原教育委員に願います。

#### **(若原教育委員)**

- ・今年6月末に鳥取県版新型コロナ警報が策定された。東部、中部、西部の地区別に注意報、警報、特別警報という3段階の警報が出る。この警報は、個人的に日常生活や仕事をする上で助かっており大変有難い。この他にも、学校教育に関してたくさんの細かなガイドラインが整備されてきた。県でも条例が策定されているが、条例や法令、ガイドラインが整備されることで今回のコロナの経験とそこから得られる教訓を形として後に残して活かす、備える、経験を無駄にしないということは大変重要だと思う。
- ・学習機会の確保について、ICT活用教育の有効性が今回非常に私たちにはっきりと示された。教育委員会でも、教育振興基本計画の中で、鳥取県学校教育情報化推進計画により2020年から2023年度までの計画を策定し進めているが、コロナによって推進計画にある児童生徒1人1台の端末と



いう時代が実現する。授業改革など、そういうことにより弾みがついたと思う。これも重要なことである。

- ・気になることは、ICT活用教育は有効だと思うが、地域や家庭の教育格差が生じないよう十分な配慮をしていくことが大切だと思う。アメリカでホームスクーリングという学校に行かないで主に家庭を拠点として、親が教えたり、ネットを利用して学習するスクールが盛んだが、そこで問題となっていることのの一つが、どうしても保護者に時間的、経済的な余裕がある人に限られてくるという格差があると聞いている。この点に注意しておく必要がある。
- ・高校入試、大学入試について、コロナ禍において学校現場で受験指導に混乱が生じないようにしなければいけない。そのことで、生徒の間に不安や動揺、或いは不利益にならないよう行き届いた指導をしてもらいたい。大学入試では、コロナの問題だけではなく、入試改革の3本柱ということで、大学入学共通テストの英語民間試験の導入や、国語、数学の記述式問題の導入、一般選抜の評価に主体性評価を導入すること、全て来年からの実施が取りやめになった。入試改革を巡る混乱で、正確な情報を生徒に伝え、動揺が広がらないようブレーキが生じないよう現場では承知されていることだとは思いますが、気になったところである。

#### **(木本局長)**

- ・続いて、森教育委員にお願いします。

#### **(森教育委員)**

- ・今年から委員会に入らせていただいた。入らせていただく経緯としては、民間企業の経営者、女性、併せて今保護者ということが背景にあったと思う。その背景の中から、本日は話をさせていただく。まずは、子育てについて、会話の中でいつも心掛けていることは、子育てで失敗を非常に怖がるお母様方が多いため、失敗を活かせる子育て、失敗を恐れない子育てということを主に会話の中に取り入れるようにしている。そのような中で、コロナの影響を受け、非常に不安だとの声があるが、コロナをマイナスではなく、コロナをきっかけとなるようなパラダイムシフトが起こると言われているため、過去を振り返らず前を向いていこうと話すことがある。教育委員としてもそのような伸び伸びとした子育てができるよう何か関りができればと思う。
- ・このことは、民間企業を経営する上でも、社会人にとっても非常に大切なことである。失敗を恐れる、失敗をして落ち込む、そのことは非常にタイムロスとなる。成長も止まり事業も止まる。そのため、子どもの頃から失敗を恐れない子育ては、社会に出てからも大きな力となる。今後、SDGsの言葉の通り、どんどん現場の中でこれから話をする機会があったら、そのことを意識しながら誰一人取り残さないという宿題を、2030年までのSDGsの宿題に向かえるよう、委員として何か貢献したいと思う。社会人から創造人に、これから社会が変わっていく中で、非常に重要なことであり、失敗を恐れない創造人になってもらいたいと思う。今後、コロナをきっかけとしてパラダイムシフトの中、このような意識を持ちながら教育の保持ができればと考える。

#### **(木本局長)**

- ・続いて、中島教育長職務代行者にお願いします。

#### **(中島教育長職務代行者)**

- ・私の方からは、コロナの状況の中で見えてきた教育の課題に絞ってお話させていただく。一つは、人権教育の重要性を今回改めて痛感したこと。感染した方に、子ども達だけではなく、大人が大半だが、非常に差別するということが鳥取だけではなく全国的に起こっている。これが21世紀の社会なのかと思ってしまうようなひどいことが行われている。このことをきっかけとして改めて自分の内なる差別意識に社会全体が気付き、それに向けて学校教育で何ができるのかということのを改め

て考えていかないといけない。そのことが恐らく不登校問題にもどこか繋がっていると思う。クラスの中でみんなの優しさがあり、子ども達が教室に来たいと思うかどうか、安心感のようなものがあるかどうかということが極めて重要なことで、改めて、今までとは違う切り口で人権教育ということを考えていかないといけない。

- ・ICT教育の活用について、これを機会にまずは基礎学力を向上させること、ICTが便利に使えるので、これはぜひ今も動き出しているところではあるがしっかりと成果を出していったらと思う。それに合わせて意欲や、最近自己調整学習能力とも言うが、自分で自分の特性を知りながら学習を自分でコントロールしていくということも、基礎的な能力として子ども達に持ってもらうように、これはインパーソナルな関係の中でしかできない部分だと思う。対面的な場面をうまく使いながらやっていく必要がある。ある意味画一的にやれる部分と、ICTを使って効率的にやりつつ個々の能力を伸ばしていくということに学校教育の資源をより効率的に使っていくことが重要になってくる。最近改めて思うことは、薫陶とか、陶冶、切磋琢磨とか人格に関する言葉は、基本的には対面の環境を前提としながら人間性が鍛えられ、或いは本質的な学びに向かっていくということのエンジンが回りだすということだと思う。その学びの場として学校が機能していくということが改めて求められるようになってきた。そういう視点により色々な課題を見直していかないといけない。

**(木本局長)**

- ・続いて、山本教育長にお願いします。

**(山本教育長)**

- ・皆様から貴重な御意見、提言等をいただいた。一つ一つ検討させていただき、取組を或いは次年度以降の施策に活かしていければと考える。コロナ禍の中で、ICTの活用が進んできた。このICTは子ども達の学びだけではなく教員の働き方改革や、不登校の子どもの学習に使えたりと様々な分野で積極的に活用していくことで教育課題を解決できる部分があると思う。一方で、ICTだけに頼るのではなくリアルコミュニケーションにもしっかりと配慮しながら進めていきたい。御意見等いただき感謝申し上げます。

**(木本局長)**

- ・一通り御意見をいただいた。予定していた時間に到達しているため、意見交換は以上で終了させていただきます。

## 6 報告

**(木本局長)**

- ・報告事項として、今後の高等教育の在り方を検討する会においての主な意見ということで、資料3として配布している。内容については資料を後ほど御覧いただきたい。今、教育委員会の方で、令和8年度以降の県立高校のあり方について審議会での審議もスタートされたところである。こうした検討をする会での意見も参考にしながら検討を進めていただけたらと思う。簡単だが御報告とする。

## 7 閉会

**(平井知事)**

- ・皆様から大変貴重な多くの意見をいただき、感謝申し上げます。今後これを活かしていきたい。ICTはまだ続くはずである。おそらく10月以降、次のコロナの波が来るかもしれない。専門家が警

告しており、その時にまた本気でICT教育、リモート教育をしなければならない場面も来るかもしれない。石原委員などから結構本音の話を聞いた。坂本委員は得意分野である。ぜひこのネットワークを活かして子ども達の教育に支障がないようにしていきたい。

- ・福壽委員から話があったが、コロナについて、ぜひ色々今後も取り組んでいきたい。実は結構チームワークで取り組んでおり、医療関係者や生活環境の分野の方などとネットワークの中で、鳥取型のいわばコロナ対策のチームというものができていると思う。こういうことが根付いて今後の衛生対策に役立つと考える。里親のこともよろしく願い申し上げる。
- ・今日は、オンライン会議ということで、やや形式的に流れた感じがする。残念なところもあり、次回、やり方も工夫してもっと活発に意見交換ができたり、政策への反映ができるようにさせていただきたい。また御協力をお願い申し上げる。

**(木本局長)**

- ・以上をもって、令和2年度第1回鳥取県総合教育会議を終了する。